

学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例

学校名	南九州市立宮脇小学校	児童生徒数	94人
-----	------------	-------	-----

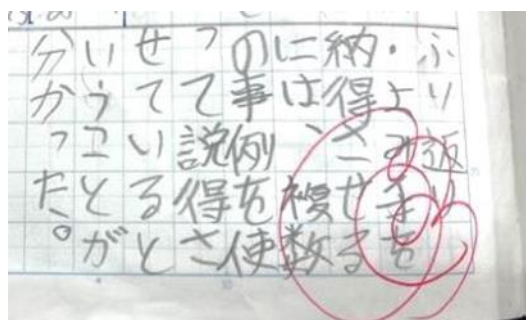
振り返りをしている子供の様子や、振り返りの視点、振り返りの記述等

わ：分かったこと
 で：できるようになったこと
 か：考えたこと
 い：生かしていきたいこと
 も：もっと知りたいこと
 もっと考えたいこと

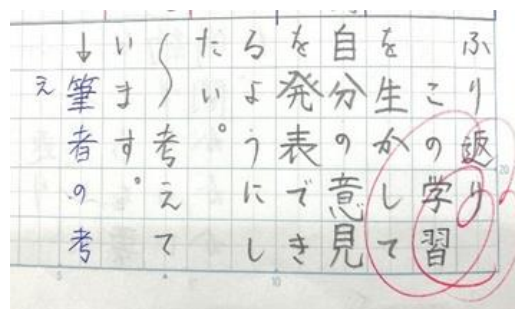


「わでかいも」を単元のはじめに振り返りの視点としてロイロノートで配布したり、終末に示したりした。

振り返りの視点「わでかいも」をもとに、ノートに学習の振り返りを記録する。また振り返りの時間を確保するために、学習活動の焦点化を行った。



実際に子供が書いた振り返り①
 (視点 分かったこと)



実際に子供が書いた振り返り②
 (視点 生かしていきたいこと)

取組についての概要 (成果)

6月7日(水) 第6学年 国語科「時計の時間と心の時間」における実践

授業では、筆者の主張とそれらを支える事例との関係について「読み」を深め、自分の経験等と照らしながら読むことで、筆者の主張の意図をとらえさせることが目標であった。教材研究により、「何を」「どのように」読み取らせるか学習活動の焦点化を行ったことで、振り返りを書く時間を確保することができた。また、振り返る視点を自由に子供に選ばせるのではなく、教師が意図をもって示すことで、子供の振り返りを生かした次の授業を構想することができた。

このような継続した振り返り活動の実践により、自分の思いや考えを長文で書くことができるようになりつつあった。また、書く視点をある程度絞ることで、振り返らせる回数を重ねるごとに自分の考えを明確に書ける子供も増え始めた。各教科の授業にとどまらず、学校行事等(持久走大会など)でも、自分の学びを文章化することができる子供が増えてきた。